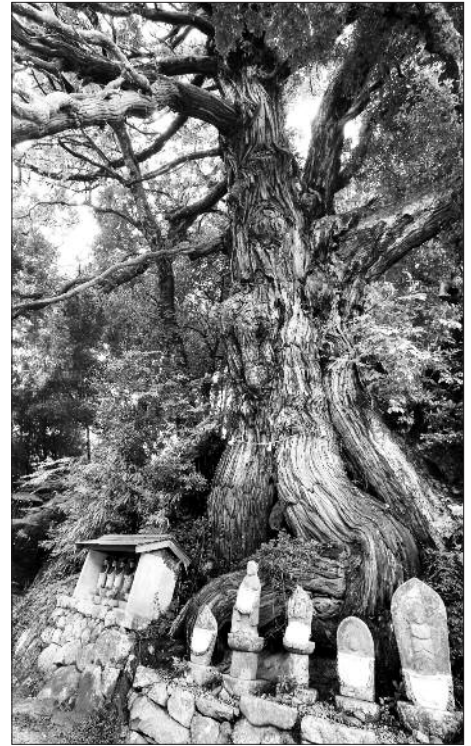


こもちすぎ  
**写真 S-134 児持杉(女杉)**  
 M8.89mの女杉とM6.47mの男杉からなり、間に祠がある。女杉は上部で14分岐し、男杉は3分岐する。双方とも天然杉の自然分岐樹形。この二樹を祈願すると子宝に恵まれるという。



がんくつかんのんどう  
**写真 S-135 岩窟観音堂の大杉**  
 観音堂への参道途中に立つ、堂々とした大杉である。(写真・石田徹)



どうにわ  
**写真 S-136 堂庭のスギ**  
 葛沢町の神社にあることから、「葛沢の千年杉」とも。参道登り口石段の急斜面に立ち、下部へ大きく根張りが伸びている。枝は地面近くまで大きく垂れるアシウスギ。根元にオオスズメバチの巣があり、M式測定はできなかった。



しわいなり  
**写真 S-137 志和稲荷神社の大杉**  
 社殿背後の山中に3本の大杉があり、その最大株。樹勢は衰えつつある。(写真・Web画像)



たろうぼう  
**写真 S-138 太郎坊の杉**  
 荒川神社の社殿背後に立つ一本杉。藩政時代に、藩命により一帯の杉を伐採した折、御神木として太郎坊の杉、次郎坊の杉の二本が残された。次郎坊の杉は昭和22年、台風により倒木した。(写真・Web画像)



いするぎ  
**写真 S-139 石動神社の親スギ**  
 この地方の親杉となったスギで、親杉の名前が残っていて、珍しく貴重な存在だ。(写真・Web画像)

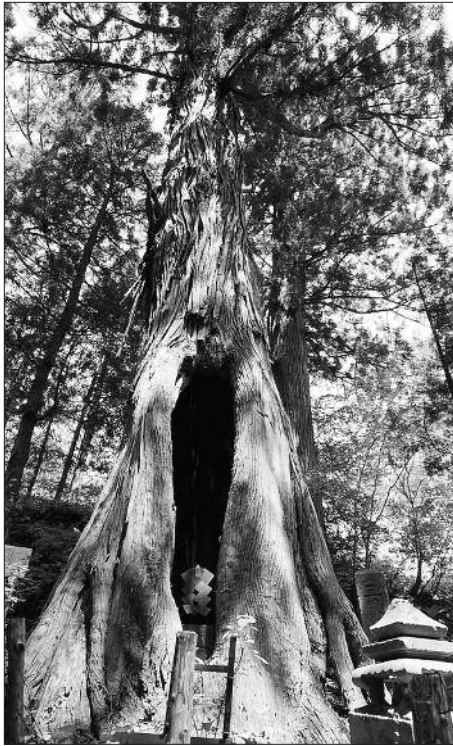


写真 S-140 <sup>うま</sup>馬かくれ杉

迦葉山の中腹にある山寺、弥勒寺の参道終点に立つ。この杉で下馬し、参詣した事に由来する。主幹の空洞には天狗の面が安置されている。(写真・Web画像)



写真 S-141 <sup>つちや</sup><sup>しんぼく</sup>土屋神社神木スギ

本殿後方の斜面に立ち、頂部は白骨化している。(写真・Web画像)

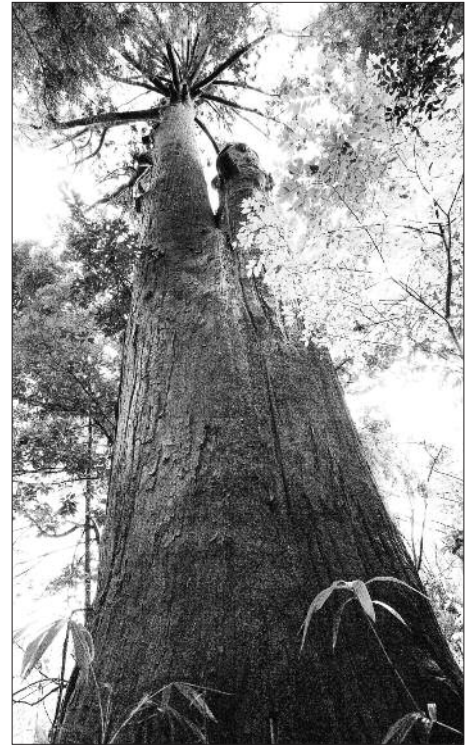


写真 S-143 <sup>ひのみやしや</sup>日宮社の大杉

かつて二上山城があった所で、現在は日宮社が置かれている。大杉は現在主幹が大きくえぐられている。



写真 S-142 <sup>ぼうがね</sup>坊金の大杉

霧ヶ岳の中腹に立つ天然杉で、坊金神社のご神木である。しかし、随分離れた高台に立っている。

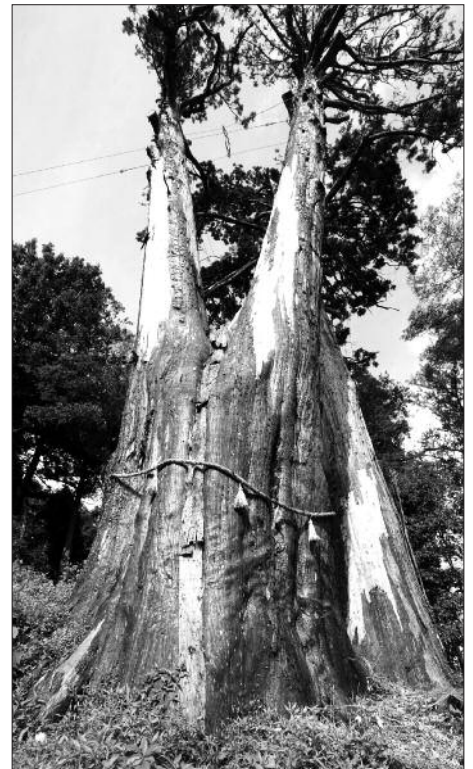
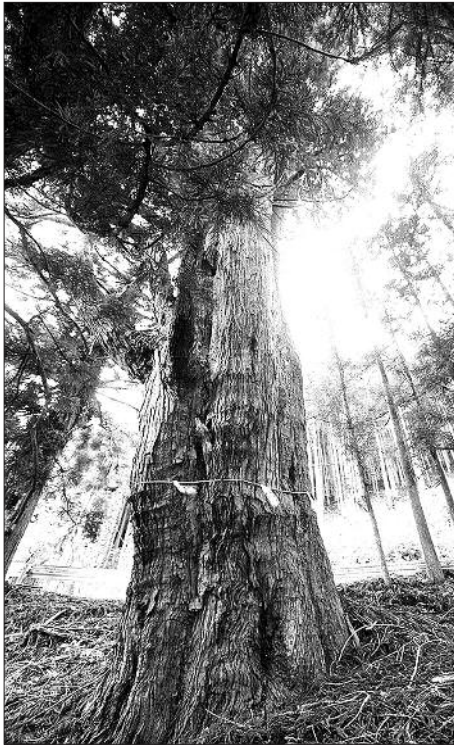


写真 S-144 <sup>うすだに</sup>白谷の大杉

八幡宮が放火の被害に遭い、大杉も類焼した。皮一枚で何とか生きています。



あめのみくまり  
写真 S-145 天水分神社の大杉  
社殿の前にスギが林立し、その最大株。上部で3分岐する樹形。  
(写真・Web 画像)



ぎおん てんぐ  
写真 S-146 祇園の天狗大杉  
祇園山の頂上近く、祇園寺の境内、鎮守社近くに立つ。大枝をよく出して伸びる怪樹である。(写真・Web 画像)



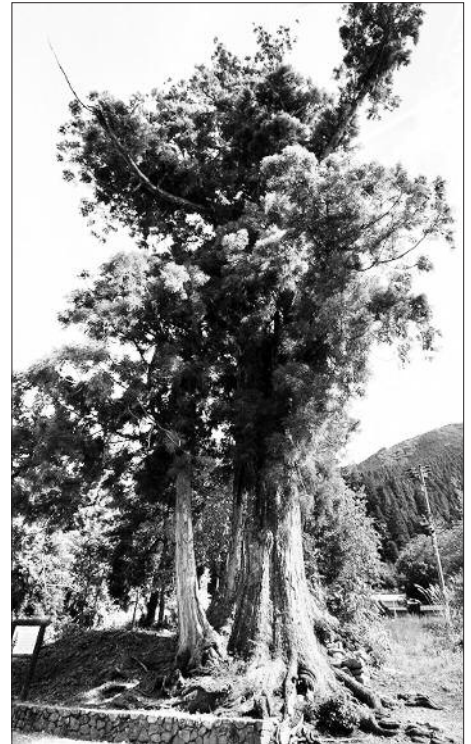
ひらさわ みだのすぎ  
写真 S-147 平沢の弥陀の杉  
だるま堂神社のご神木であるが、かつて安養寺というお寺の境内地にあった。寺の本尊は阿弥陀如来であった。(写真・Web 画像)



写真 S-148 一の宮神社の大杉  
大杉の林立する境内で最大株の見事な一本杉である。(写真・Web 画像)



はくさんちゆうきよ  
写真 S-149 白山中居神社のスギ  
神社神域には見事な一本杉や、合体杉が林立している。拝殿左裏手の最大株。



すぎはら  
写真 S-150 杉原の大杉  
光山上人や八百比丘尼が植えたとの伝説が残る。杉原集落の一角に立つ。(写真・Web 画像)

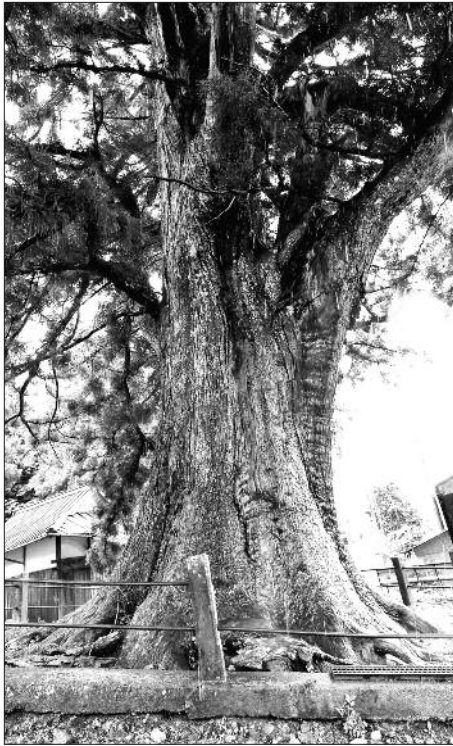


写真 S-151 <sup>はなさき</sup>鼻崎の大杉

高根神社に至る参道入口に立つ堂々たる大杉である。



写真 S-152 <sup>くぼ</sup>久保の大杉

久保の山中にあり、山の神、長寿の神として在所の人々の信仰を集めている。  
(写真・Web画像)



写真 S-153 <sup>べつちやく</sup>別役の大杉

聖神社境内にある見事な大杉である。  
(写真・石田徹)



写真 S-154 <sup>だいおうすぎ</sup>大王杉(行者の父)

英彦山信仰の修験者が植えたと伝えられる親杉の内、最大株。他に霊験杉、境目杉がある。



写真 S-155 <sup>みねがたすわしや ろうざん</sup>嶺方諏訪社の老杉

境内には大杉が林立し、その最大株。堂々とした見事な樹形で、親杉である。

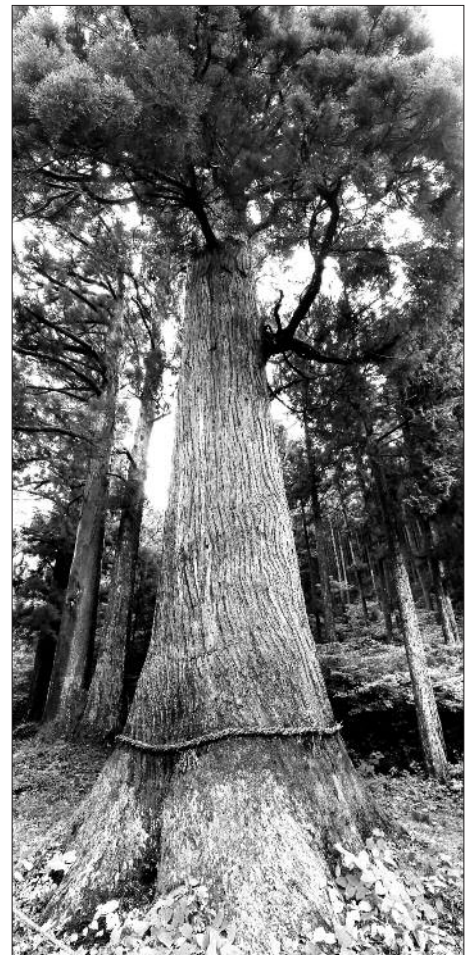


写真 S-156 <sup>しゅご</sup>守護神社の大杉

深い山中にある守護神社境内にある3本の大杉の内、最大株。見事な一本杉で、親杉である。

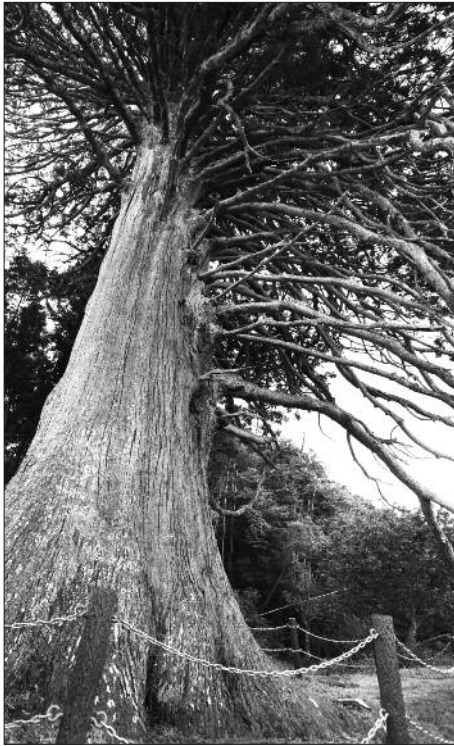


写真 S-157 <sup>きりやま</sup>切山の<sup>大</sup>大杉

無数の枝を出すアシウスギの品種である。下部の枝葉が地面に着き、芽を出すいわゆる伏条になっている。

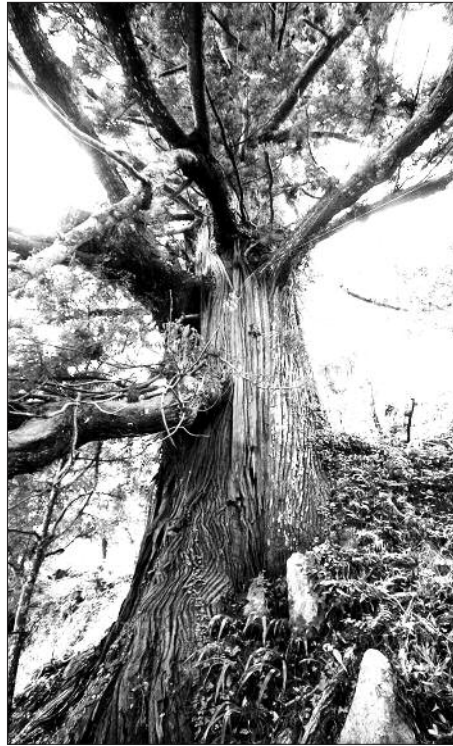


写真 S-158 <sup>ぜんぶくじ</sup>善福寺の<sup>せんねんすぎ</sup>千年杉

善福寺の境内、石垣上の急斜面に立ち、墓標であった。上部が破損しているが、「桃原の牡丹杉」の様であったという。(写真・Web画像)

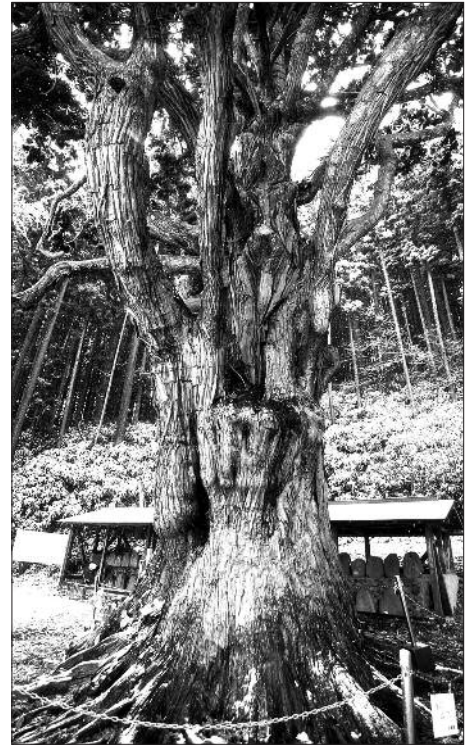


写真 S-159 <sup>せき</sup>関の<sup>かめすぎ</sup>養杉

樹形が水養を伏せた形に似るからという。天然杉の分岐樹形である。



写真 S-160 <sup>わしくら</sup>鶯倉神社の<sup>うぼすぎ</sup>姥杉

境内中央に立つ見事な一本杉である。(写真・Web画像)



写真 S-161 <sup>はぐろさん</sup>羽黒山の<sup>じじすぎ</sup>爺杉

羽黒山の表参道一带に林立する杉は、藩政時代に植えられたもので、国指定特別天然記念物。その中で最大株が爺杉。枝が髭のような品種。

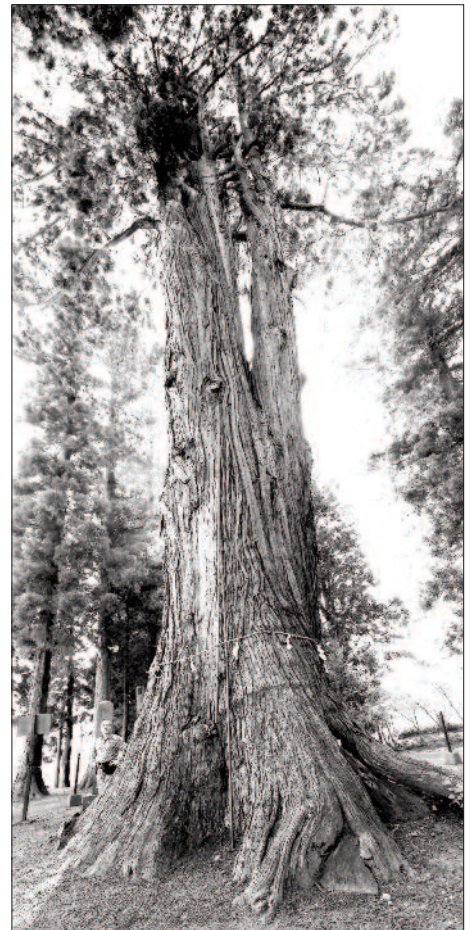


写真 S-162 <sup>しもまちてんじんしゃ</sup>下町天神社の<sup>大</sup>大杉

上部で3分岐する。3本の合体木と考えられる見事な融合木である。



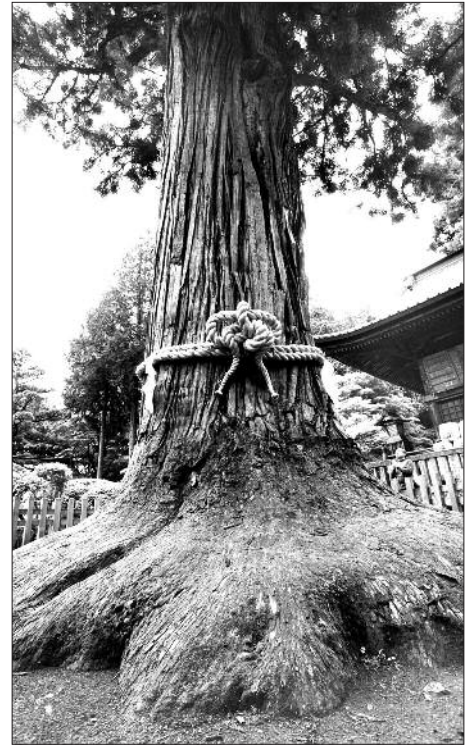
二代杉 にだいすぎ

写真 S-163 頭聖寺から少し離れた山中に立つ。二代目住職のお手植えの由来がある。(写真・Web 画像)



氷室神社の大杉 ひむろ

写真 S-164 楯形山中腹、標高約千 m にある氷室神社、社殿後方に立つ。親杉創成期に植えられたと考えられる貴重なスギである。(写真・Web 画像)



富士太郎杉 ふじたろうすぎ

写真 S-165 正式名は「北口本宮浅間神社の大スギ」で、富士太郎杉は通称。本殿前に立つ見事な一本杉。根元が大きく広がる個性的な樹形をしている。



与川白山神社の大杉 よかわ

写真 S-166 奥之院に続く参道沿いに立つ三本の大杉の内、最大株。見事な一本杉。枝が垂れるアシウスギである。



大門坂の夫婦杉 だいまんざか めおとすぎ

写真 S-167 熊野那智大社の表参道、大門坂の入口にある一対の門杉。(写真・石田徹)



蟬谷神社大杉 せみたに

写真 S-168 神社境内中央に立つ見事な一本杉である。(写真・Web 画像)



写真 S-169 <sup>かつち</sup>勝地の大杉

天然杉の伏条分岐杉であるが、林道沿いにあり、山人によって守られてきた。主幹と側幹3本からなる。



写真 S-170 <sup>かわぐち せんげんじんじや</sup>川口浅間神社七本杉

七本の内、5番目の大杉で、「二柱の杉」の一本。縁結びのご利益がある。



写真 S-171 <sup>かわぐち せんげんじんじや</sup>川口浅間神社七本杉

七本の内、一番奥の7番目の大杉。根張りが見事で、安定感がある。



写真 S-172 <sup>みさかじんじや にほんすぎ</sup>神坂神社の日本杉

元々二本あった。主幹各所に巨大なコブがあり、かなり衰弱している。



写真 S-173 <sup>せんげん とりいすぎ</sup>浅間神社の鳥居杉

向かって左が幹周8.1m、右が5.2mの一对の鳥居杉。(写真・Web画像)



写真 S-174 <sup>さわら</sup>佐波良の大杉

佐波良神社、形部神社の合社境内に立つ。3mで6分岐する樹形。(写真・Web画像)



写真 S-175  
くまのろうざん  
熊野神社の老杉



写真 S-176  
たがうばき  
多賀神社の姥木

神殿の左手に立つ一本杉。  
(写真・Web画像)

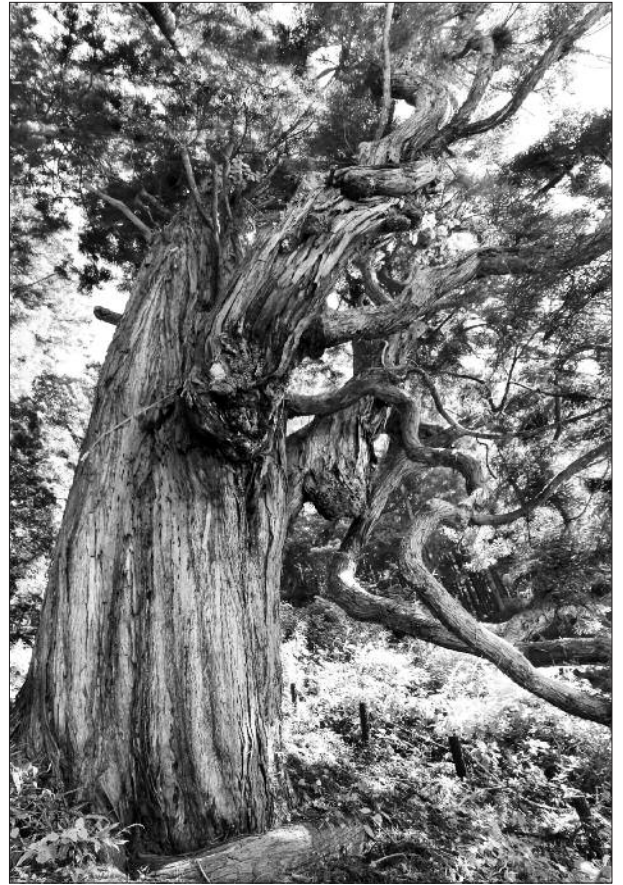


写真 S-177 なるおくまのじんじや  
鳴尾熊野神社大スギ

「逆スギ」と言われるように、枝が大きく垂れる。大枝の付根辺りに気根が7個見られ、最大は長さ0.5m(写真中央に見える)。スギの気根では、隠岐の「乳房杉」に次ぐもの。



◀▲参道一带に大杉が林立する。その内の最大株であるが、二本の合体木で、一本は融合上部で破損し、細い立条幹が何本も出ている。

(写真・赤司裕宣)



写真 S-178 こつなぎすわじんじや  
小貫諏訪神社の大杉

2004年の中越大地震により閉村した神社の境内の際に立つ。谷側の樹形が荒々しい。



写真 S-179 やさかさぎ  
弥栄杉(蓮華杉)

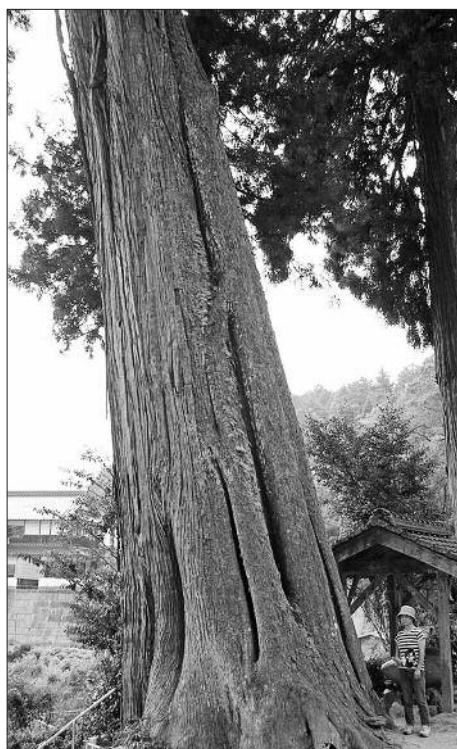
若宮八幡神社本殿後方に立つ。二本の合体木で、融合による繁栄を込めている。  
(写真・Web画像)



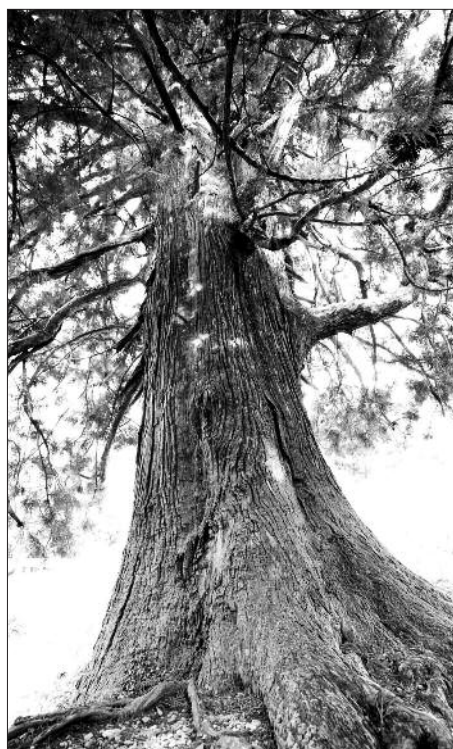
写真 S-180 いたがたに  
板ヶ谷八幡神社の大杉

5本の一本杉の寄植えによる合体木で、前面はかなり融合が進む。背後の合体部に不定根が見え、合体の痕跡がある。





くまの ごほんすぎ  
**写真 S-181 熊野神社の五本杉**  
 5本の大杉がある内の最大株。境内地の際にあって、全てが傾斜している。  
 (写真・石田徹)



くわだいらどう  
**写真 S-182 桑平堂の大スギ**  
 堂のすぐ脇に立ち、上部で分岐している。近くには大トチノキもある。



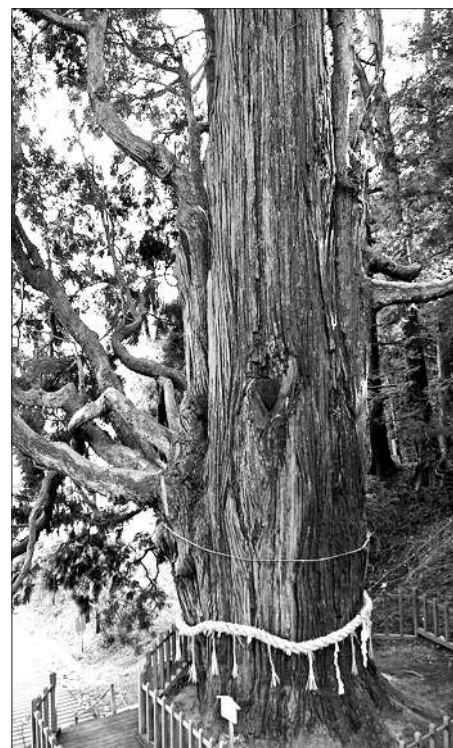
じゅうにしよ  
**写真 S-183 十二所神社のスギ**  
 2mで側幹が斜上する荒々しい樹形の大杉である。伏条枝を側幹として育てていったもの。  
 (写真・石田徹)



にやくいちおうじぐう はらみすぎ  
**写真 S-184 若一王子宮の孕杉**  
 参道脇に立ち、根元が膨らんで、妊娠している姿に似る所以。安産祈願信仰がある。(写真・石田徹)



ふたはしら  
**写真 S-185 二柱神社のスギ**  
 社殿横に立ち、「鉾杉」の別名もある。  
 (写真・Web 画像)



だいひさん  
**写真 S-186 大悲山の大杉**  
 天然杉のアシウスギを育てたもので、主幹からでる多数の分岐幹が荒々しい。  
 (写真・石田徹)

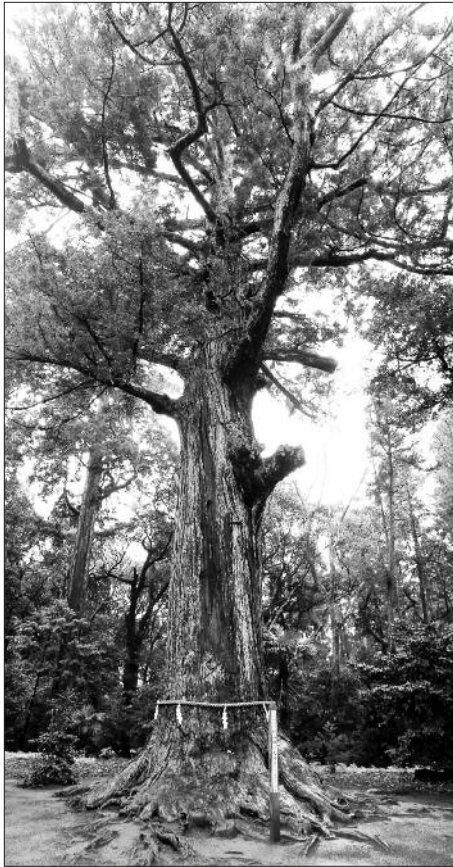


写真 S-187 <sup>まつやま</sup> 松山神社の大杉  
根元が広がり、安定感のある見事な一本杉である。



写真 S-188 <sup>いつはしら</sup> 五柱神社の杉  
参道石段上部に聳える見事な一本杉。  
(写真・Web 画像)

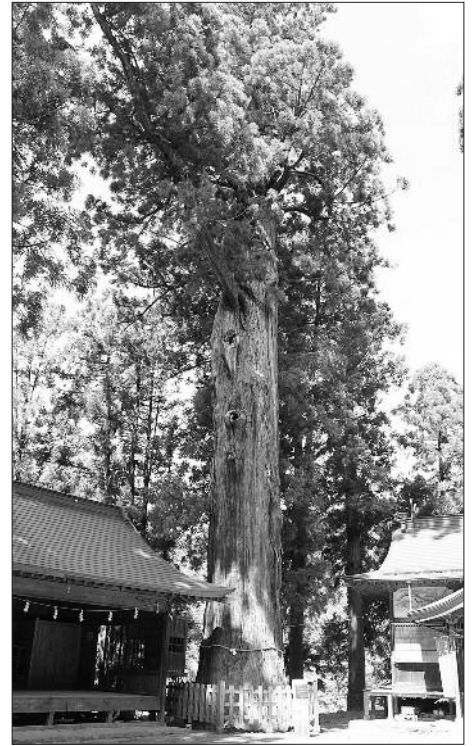


写真 S-189 <sup>あおねすわ</sup> 青根諏訪神社の大杉  
本殿の横に立つ見事な一本杉。  
(写真・Web 画像)



写真 S-190 <sup>ちまんじ かみなりすぎ</sup> 智満寺の雷杉  
智満寺の十本杉の内。一本杉であるが、枝が荒々しく出ている。



写真 S-191 <sup>ちまんじ</sup> 智満寺の一本杉  
智満寺の十本杉の内。見事な一本杉である。  
開山杉と頼朝杉は倒壊。



写真 S-192 <sup>むろうじ てんじんすぎ</sup> 室生寺の天神杉  
大杉が林立する広い境内の奥、天神社の後方に立つ見事な一本杉。他に「室生寺のスギ」と称する幹周 8m 代のスギが 2 本ある。(写真・Web 画像)



▲写真 S-193 <sup>こうしょうじ</sup>高照寺の<sup>さか</sup>倒さ杉 高照寺前の水田の中にあり、松のような樹形をした珍しいスギである。5m 付近で分岐した幹の内三本が地面に着くように枝垂れる。松のように人為的に造られたものだろう。



◀写真 S-194 <sup>しんぐうじんじや</sup>新宮神社の杉

枝が無数に出る樹形は天城の「お化け杉」や愛知県の「切山の杉」等に見られるが、千手観音杉とでも表現したい程、完成度が高い。多枝品種のスギのルーツは、京都・井ノ口山に見られる。

▼写真 S-195 <sup>おおたきじんじや</sup>大滝神社の大杉

大滝神社の奥之院がある裏山山頂に立つ単幹樹で、親杉である。



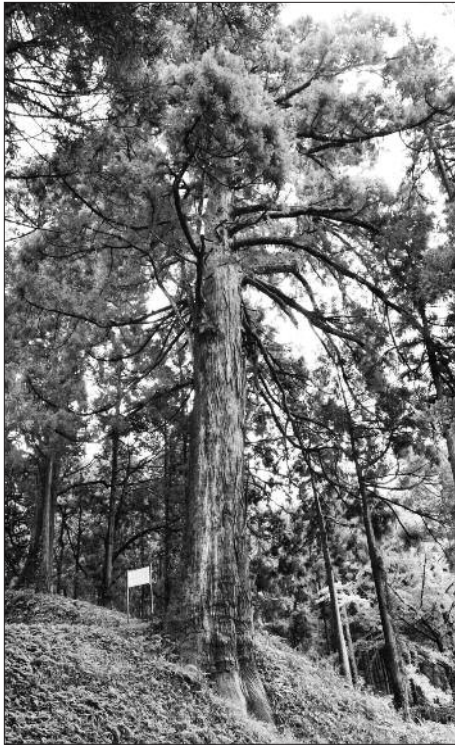
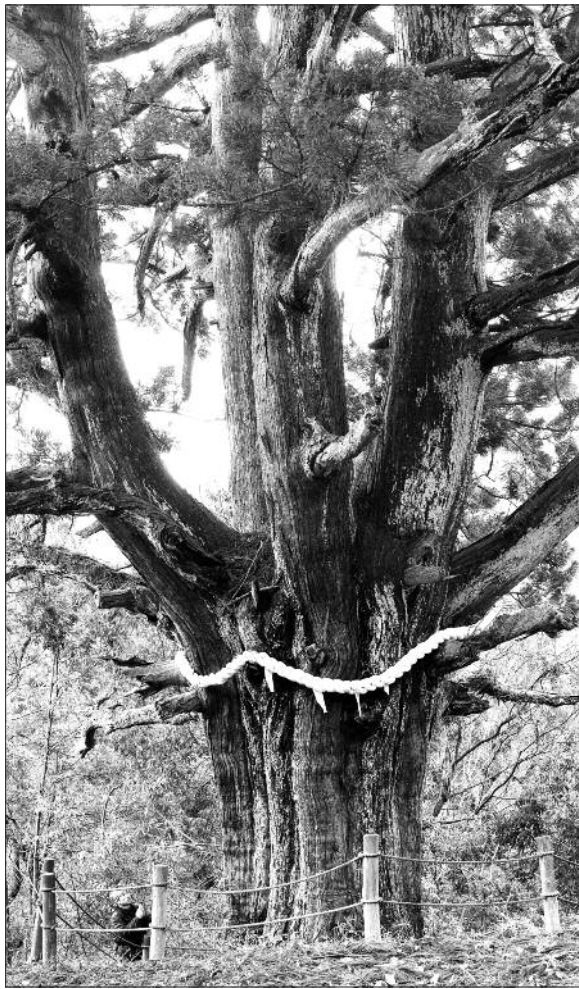


写真 S-196 白山神社のバラ大杉

枝先がバラバラに見えることから命名された。枝が大きく垂れ、積雪に対応できるため、降雪地方の親杉として植えられたという記録が残る貴重な大杉だ。



◀写真 S-197

すぎお  
杉尾の大杉

杉社神社の裏山にあり、地上 4m 付近から 8 分岐する樹形。主幹が無いことから、台杉仕立てで、切断部からの伏条幹が巨大化したものか。

▼写真 S-199

ほうらいじ かさすぎ  
鳳来寺の傘杉

鳳来寺山の山腹にある鳳来寺参道の杉林の中にあるもので、地元では日本一の樹高としている。

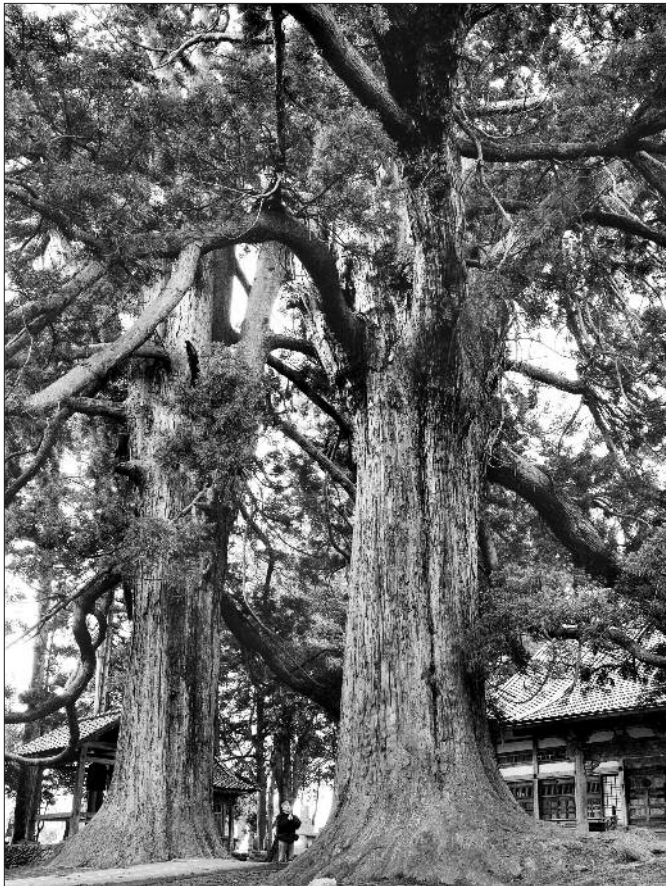


写真 S-198 巖照寺の門杉

タテヤマスギ系マスヤマスギの親杉と記録にある貴重な文化遺産である。上部で分岐幹が多数出る樹形は、剪定によるものだろう。



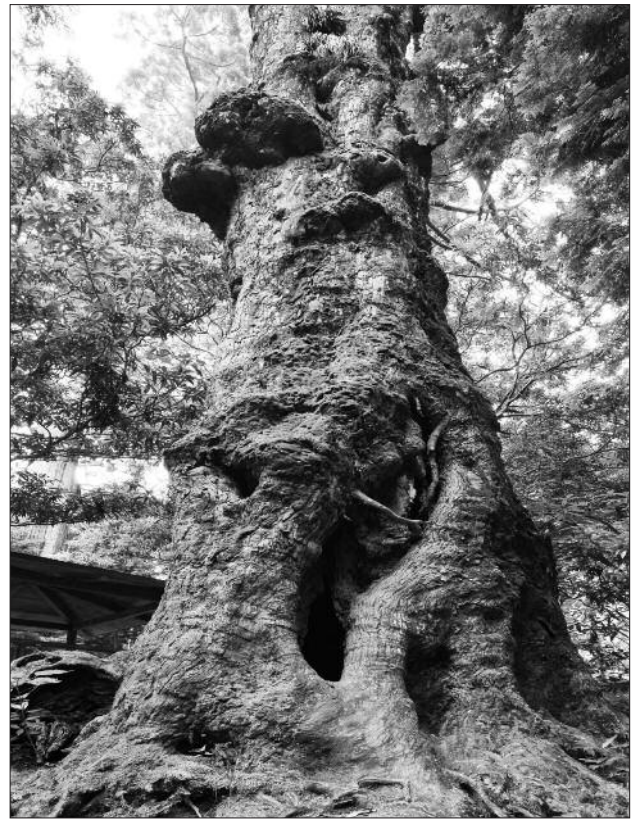
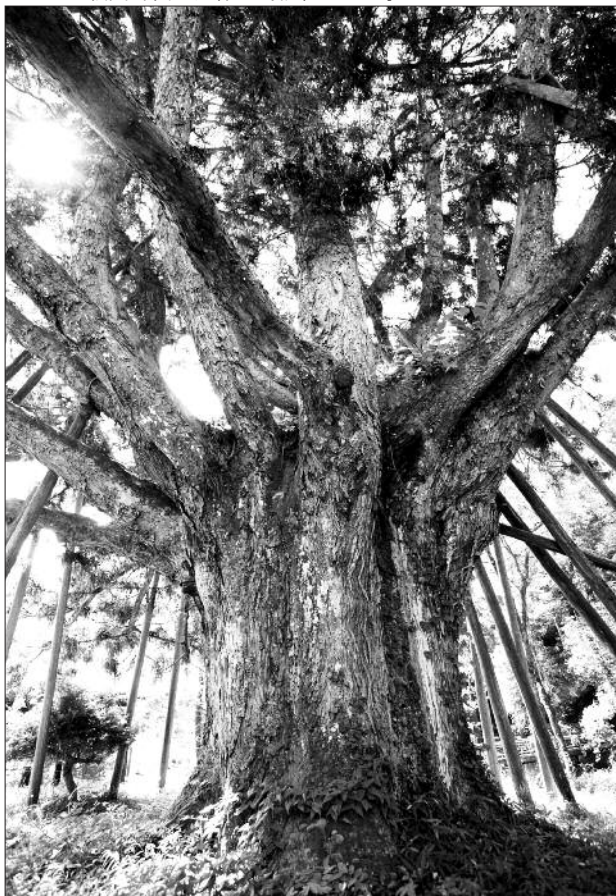


▲写真 S-200 <sup>おおすぎ</sup>大杉さん

二軒しかない名倉から、山道を登った山中にある山の神。多数に分岐するのは天然杉の伏条分岐幹と考えられる。

▼写真 S-202 <sup>だんごすぎ</sup>団子杉

団子杉は樹形が球形をしていることから命名された。戦国時代の墓標の可能性もある。



▲写真 S-201 <sup>やづ ふたまたすぎ</sup>八頭の二股杉

八津の大杉の近くに立ち、上部で二分岐する樹形。コブや空洞が多く、異形のすぎだ。

▼写真 S-203 <sup>ふくとみほくさんじんじゃ</sup>福富白山神社の杉

天然杉のご神木だ。地上3~4mで5分岐する樹形で、主幹は一本杉。幹に大きなコブが多く、大枝の痕跡だろう。荒々しい樹形はご神木にふさわしい。



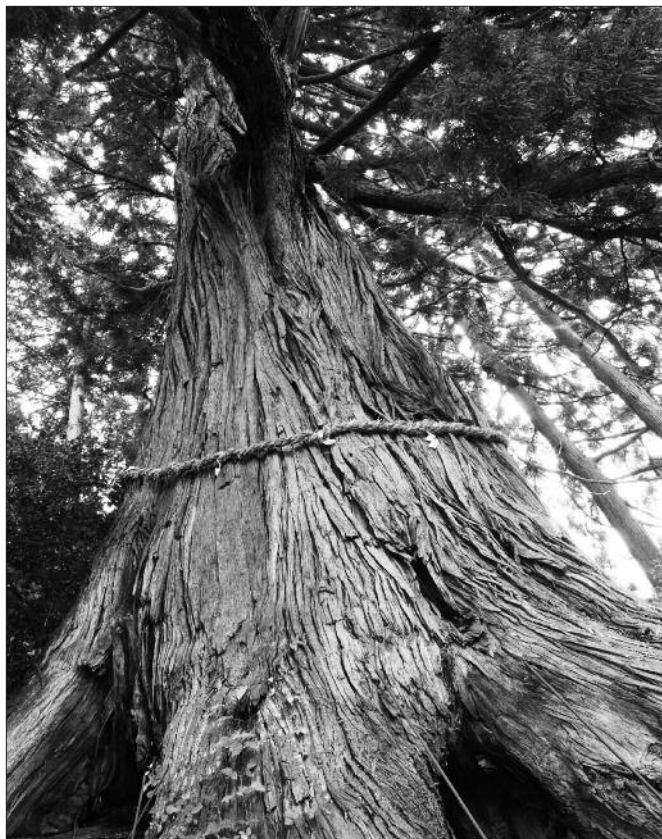


写真 S-204 <sup>くしいげ</sup> 櫛池の大杉

八幡神社のご神木で、根元が発達して安定感がある。

▼写真 S-206

<sup>やひこ</sup> 弥彦の <sup>ぼぼすぎ</sup> 婆々杉

宝光院から杉木立の中を抜けると、玉垣に囲まれて立つ堂々たる大杉。



写真 S-205▶

<sup>ぼだいじ</sup> 菩薩寺のしだれ杉

本堂の前庭と道路の際に4本あり、その内3本が大きく枝垂れる珍しい杉。以前は観音杉と呼ばれていた。非常にヤニが強く、日当りもよい事から、枝が枯れないで成長し続けたようだ。



写真 S-207▶

<sup>すぎさかとうげ</sup> 杉坂峠の杉

杉坂峠に麓の多賀大社の御神木が4本あり、最大株。地上近くで3分岐する樹形。天然杉の伏条分岐杉である。



さくらみ やつふさぎ  
**◀写真 S-208 桜実神社の八ツ房杉**

八本の幹が叢生する樹形で、社殿方向に広がる樹形。天然杉の伏条分岐杉であるが、衰弱が見られる。

**▼写真 S-209**

ごおう  
**護王さんの杉**

山の中にある怪樹だ。護王権現を祀っていた石の祠は崩れている。樹下にある石仏は「火伏地藏」である。天然杉の主幹から出た伏条枝を育てたものようだが、主幹は2006年の落雷によって崩れた。しかし、大きく伸びる巨大な側幹によって、幹周14mの巨木に匹敵する迫力がある。側幹がここまで巨大化した例は珍しい。

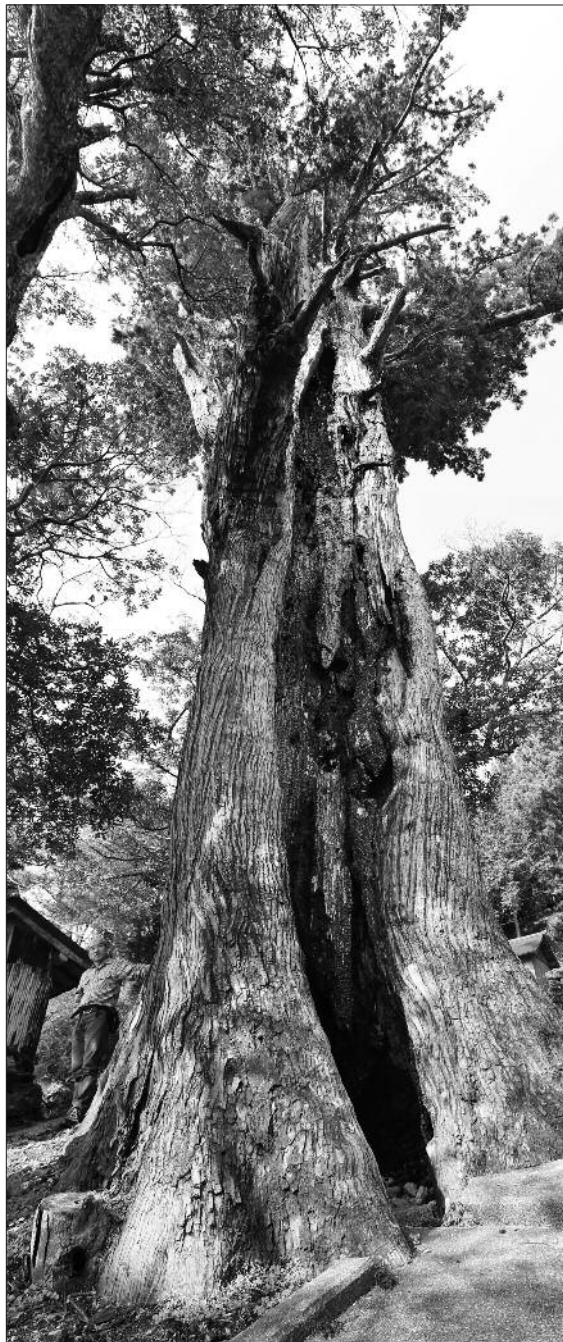


**◀写真 S-210**

たかもりどの  
**高森殿の杉**

「高森殿」とは、かつてこの地にあった高森城の城主であった高森伊予守惟直の事である。天正14年(1586)正月23日、島津勢との戦に破れ、再起を図ろうと豊後に逃れる途中、追手に囲まれ、家臣共々この地で自刃したという。もともと墓があったが、寛永6年に含蔵寺に移された。墓標として植えられたものか。

雄木、雌木という二本の杉があり、これは雄木で長い伏条幹が伸びる。雌木は根元近くで4分岐する。いずれも大事に育てられた天然杉である。



◀写真 S-212

ながぶち  
永淵神社のスギ

展望のよい集落にある神社境内に立つ一本杉であるが、落雷によって主幹が大きく損傷している。



写真 S-213▶

樹高日本一のスギ  
きみまち杉

仁鮎水沢スギ植物群落保護林の中にある。樹高は1995年当時58mと記録されている。秋田営林局が全国の営林局を通じて巨木調査を実施し、さらに文献等を調べて、日本一と判明したという。実際の測定は、木の頂上まで登って正確に測定された。



◀写真 S-214

いせ  
伊勢神社の大杉

拝殿横に立つ見事な一本杉。根元の空洞に狸が棲みつき、これをいぶして火災になった。痕跡が今も残っている。

写真 S-215▶

さくらぎ  
桜木神社の大杉

かつて桜木神社があった跡地に立つ大杉で、2本の合体木。融合による子孫繁栄を祈念したものか。融合の痕跡が明瞭に残る貴重な文化遺産である。

